

## 令和4年度 第2回浜松市立図書館協議会 会議録

- 1 開催日時 令和4年10月28日（金） 午後2時00分から4時00分まで
- 2 開催場所 浜松市立中央図書館 大会議室
- 3 出席状況 委員：岡田 建志、白岩 伸也、遠藤 浩子、高木 みゆき、  
永田 浩介、三宅 栄子、屋名池 倫子、三津間 洋子
- 事務局：  
中央図書館長 高瀬理子、  
中央図書館館長補佐 山下讓、中央図書館専門監 久野正博、  
図書館管理グループ長 内藤真澄、  
図書館サービスグループ長 鈴木早苗、  
調査支援グループ長 吉田佐織、  
資料・情報グループ長 鶴飼康生、  
天竜図書館長 村雲稔、春野図書館長 笹竹由美子、  
佐久間図書館長 藤本勝治、水窪図書館長 宇井智洋、  
龍山図書館長 鈴木忠、森田ひとみ主任、柏木麻友子、増原愛海
- 欠席  
文化振興担当部長 嶋野 聡
- 4 傍聴者 0人（一般：0人、記者：0人）
- 5 議事内容 (1) 会長及び副会長の選出について  
(2) 図書館評価について  
(3) その他
- 6 会議録作成者 図書館管理グループ主任 森田ひとみ
- 7 記録の方法 発言者の要点記録
- 8 会議記録

- 1 開会
- 2 中央図書館長あいさつ
- 3 図書館協議会委員の委嘱
- 4 図書館協議会委員の紹介
- 5 職員紹介
- 6 議題

## (1) 会長及び副会長の選出について

高瀬館長より、協議会の会長及び副会長の選出について、浜松市立図書館協議会条例第3条2項により、委員の互選により定めることになっていることの説明をし、委員からの提案を求めた。  
三津間委員から岡田委員を会長として推薦する旨の提案があり、承認された。続いて、岡田会長から副会長として三津間委員を推薦する旨の提案があり、承認された。  
これ以降は岡田会長により議事進行。

## (2) 図書館評価について

図書館評価について内藤図書館管理グループ長が、資料2「図書館評価について」資料3「図書館評価の方法について」資料4「浜松市立図書館評価（令和3年度）（案）」により説明。

質 問 意 見

三 宅 委 員 資料4「浜松市立図書館評価（令和3年度）(案)」p1, 2「いかす」についてとてもよくまとめられている。図書館職員の努力を前回の協議会委員も評価をしていたところなので、よい結果が出てよかった。以前の評価ではCがあったように記憶しているが、今回Cがなかったことはとても評価できる。

岡 田 委 員 電子図書の多言語資料について、英語以外の言語の資料が少ないという課題が挙げられているが、市立図書館の蔵書として相応しい英語以外の言語の資料自体がそもそも少ないのではないだろうか。

鵜 飼 G 長 実際に出版されているものは英語の資料が圧倒的に多い。ポルトガル語等の多言語となると、通常の流通に乗っているものや購入できるものは極端に少ない。そもそも選択肢が無く、増やすのは難しい状況である。

岡 田 委 員 国内の流通をみると、確かに英語以外の言語の資料の入手は難しいところではある。それでもそういった資料の需要はあるということで、積極的に取り組んでいただいている点ありがたい。

三 津 間 委 員 資料4「浜松市立図書館評価（令和3年度）(案)」p3, 4「はぐくむ」について、この資料は令和3年度のものなので評価を変えて欲しいという意図ではないが、自己評価の尺度が厳しいのではないだろうか。学校教育に携わった者の感覚では90%～95%で5段階評価の2というのは不自然さを感じる。

目標値、実績があり、また前年度との整合性といった面もあるためすぐに何かを変えるのは難しいが、達成率は目標値をどのように定めるかによって変わってくる。例えば、「第3次浜松市子供読書活動推進計画」での学校関係の10年後の目標値をみると、数値が下がっているものもある。10年後を見据え、何らかの根拠をもって決定したもので、ここから達成率が決まり評価が決まってくるものである。図書館の、自分に厳しくという向上心は理解できるが、それだけでは違和感を感じてしまう。

先ほどのp1, 2「いかす」の評価指標「4障がい者向け資料の延べ利用者数」の場合、目標値が15,291人で実績が15,112人、達成率が98.83%であるから評価点が3とあるが、3という評価点は自分たちの感覚では普通という評価である。しかしながら達成率等他の数値をみるともっと頑張っているということがわかる。

5段階評価というものを常に仕事で接してきた者としては、3が普通、4が頑張った、5が完璧、2はかなり足りない、1は論外くらいの感覚がある。そのためこのパーセンテージの設定は厳しいと感じる。

目標値の設定については、いろんな視点や数字の中からパーセンテージがでてくるので根拠を明確にしていくことが大事である。どこに視点を置くか、厳しい目標とそこまで厳しくない目標とがあってもよいのではないだろうか。

岡 田 委 員 100%を上回って達成したのかどうかという区別をしているのかもしれないが、一般的な、あるいは教育の場の感覚からすると、100%達成できたら評価5でよいのではないかと思う。また5%刻みというのもずいぶん細かいが、これは法律などの根拠があつてのことなのか。

- 高瀬館長 法律等の根拠ではない。平成30年の「浜松市図書館ビジョン」策定後、図書館評価はビジョンに掲げた目標が、どう達成できたのかを見ていく方向に変わった。事務局で評価方法を提案し協議会にて承認され、現在に至っている。  
この基準が厳しい考え方であるという指摘は前回もいただいたものであるので、改めて評価基準についての見直しを検討し、委員の皆様のご意見を伺いたい。
- 岡田委員 令和3年度の評価については、すでにある尺度に沿ってなされているので令和4年度の記述自体を変えるものではないと思うが、評価についての意見があがったのでまた検討いただきたい。
- 屋名池委員 p5,6「つながる」の評価指標にあるボランティア受入人数は、障がい者サービスに対してのボランティアとのことだが、「はぐぐむ」にもボランティア受入人数の指標がある。こちらは読み聞かせボランティアということで、その対象が子どもでもあるから「はぐぐむ」の指標となっているのか。
- 山下補佐 「つながる」の方は、障がい者サービスボランティアだけでなく中学生図書館ボランティアも含まれている。
- 高瀬館長 「つながる」は地域の方との連携という意味合いの目標値である。読み聞かせボランティアはおはなし会等に携わるものでこちらは「はぐぐむ」という指標に、それ以外のボランティアは「つながる」に計上している。
- 三津間委員 中学生図書館ボランティアは例年参加者が多く、毎年3桁ほどの人数が参加している。障がい者サービスボランティアの横にその名称を明記してもよいのではないかと。  
中学生図書館ボランティアとつながるのか、中学生にボランティア活動をしてもらうことによってはぐぐんでいるのか、その捉え方によって異なってくるので名称を記載してもらえとはっきりする。
- 岡田委員 確かに、実際に中学生図書館ボランティアの参加者がこの資料を見ても、どこに反映されているのか分かりづらいと思われる。「つながる」の評価指標「1 ボランティア受入人数」には、障がい者サービスボランティアに加えて中学生図書館ボランティアと明記、訂正をお願いしたい。
- 三津間委員 そうなると「はぐぐむ」の読み聞かせボランティアの受入人数というのは、育成している人数となるのか。それとも地区館等で実際に活動をしている人数となるのか。
- 高瀬館長 延べ人数ではなく、活動をしている実人数である。
- 三津間委員 育成人数はどのようになっているのか。
- 早苗G長 読み聞かせボランティア養成講座で受入をし育成したとしても、途中で辞められる方もいるため、受入人数と育成人数の累計は一致しない。育成に当たっては、現在全8回の養成講座を受講していただく必要があるが、コロナ禍においてもきちんと受講できる環境を整えるため、令和3年度は受講人数をかなり絞って開催をした。令和2年度の開催が中止になったりと、年度によって育成人数も様々となっている。

- 三津間委員 「はぐぐむ」「3ボランティア（読み聞かせボランティア）受入人数」は、実際に地区館等で読み聞かせを行っている方の人数ということでしょうか。
- 早苗G長 お見込みのとおりである。
- 高瀬館長 コロナ禍で中止した年もあったが、毎年読み聞かせボランティア養成講座を開催している。令和3年度では修了者が19人であり、延べ参加人数は154人であった。活動を前提とした講座であるため、ほとんどの方はその後も活動を行ってくださっている。しかしながら途中で辞められる方もおり、現在の受入実人数はこの資料にあるとおりとなっている。
- 三津間委員 音訳ボランティア養成講座や学校で活動を行う読み聞かせボランティア養成講座などは核となる人材を育ててくれるものと考えている。来年度以降どこかの指標で計上されていくとよい。養成講座に出席している人は、自分の時間を割いてまで、お役に立ちたい、実践したいという熱意のある人が多いと思うので、それが反映されると図書館としてポイントとなってくるのではないかと。
- 高瀬館長 その年に養成した人数ということか。
- 三津間委員 パーセンテージで示すのは難しいと思うが、今年何人養成したという実績を示す項目があってもいい。養成講座に出席したキーパーソンが学校や障がいのある方と繋がってくれている。
- 高瀬館長 実践できた取組の項目等で、どこかに見える形で記載していきたい。
- 山下補佐 目標としては設定のしづらい項目であるが、実績として人数の記載をすることによって、評価をよりしやすくなるようにしていきたい。
- 岡田委員 「つながる」の項目で何らかの形で記載していただくよう、今後に向けて検討をお願いしたい。
- 三宅委員 p7, 8の「つくる」の評価指標である、新聞等でのパブリシティ件数について、もう少し高い目標でもよいのではないかと。また実績39という数値があるが、これは新聞に載ったら1というような回数を計上しているものになるのか。
- 高瀬館長 件数は回数を1として計上している。
- 三宅委員 そうなるとやはり、各年度12ヶ月あるので1年間の目標値が37というのは少ないと思われる。
- 早苗G長 コロナ禍の状況で、各館とも新聞社やテレビ局等に働きかけを行う集客方法に消極的になっていた。密集する状況を創出してしまうことに戸惑いがあり、発信をためらう傾向があったため、目標値を少し控え気味に設定したものである。状況はパブリシティ件数を指標とした当時に戻りつつあるので、目標値も徐々に戻していきたいと考えている。
- 高瀬館長 今後は積極的に図書館のアピールをしていきたい。

岡田委員 デジタルアーカイブは来館せずとも利用できるというコンテンツが充実している。そういったところもパブリシティの対象としてもよいと考ええる。  
また、利用者カードの登録について、登録は浜松市在住者のみならず通学通勤している人も登録が可能と承知している。評価につなげられるような、それぞれの数値や変遷などは把握しているか。

鵜飼G長 利用者登録時は区別をしているが、システムの統計では特に区別をしていない。

高瀬館長 在勤・在住で分けた統計データを取っていないので把握はできていない。

山下補佐 在勤・在住のデータはなかなか取りづらいという現状がある。通学在勤者が全登録者数の何%というのは現段階では算出する方法がない。

岡田委員 大学では市外から通学してくる学生も多い。そういう学生たちにとっては、駅前分室はとても利用しやすい。どれくらいの市外の方に利用してもらっているのか、気になるところである。

高瀬館長 実際カード登録をする人は、住所を書いてもらい在勤か在住か確認するが、統計に繋がるような入力をしていない。また特に駅前分室は雑誌が豊富なので、館内閲覧のみ利用される方もいる。そういう方はどこにお住まいなのか把握するタイミングもないため分からない。欲しい情報ではあるが確認ができないのが現状である。

永田委員 p9の利用者アンケートについて、実施期間が9月1日から20日とのことだが、何か理由があってこの時期に実施しているのか。

高瀬館長 毎年11月に市全体で実施する「市民への約束」アンケートの期間とかぶらないようにしている。また、その年度の調査ということで年度初め早々ではなく、ある程度図書館を利用してもらったタイミングでご意見を聞きたいという意図もあり、利用者アンケートは毎年この時期に実施している。

永田委員 一般的に子どもが夏休みとなる8月の利用が、年間を通して一番多い。そこで実施すればより多くの回答が得られると思われる。

高瀬館長 検討をさせていただく。

岡田委員 その他に意見がなければ、先ほどのp5「つながる」の評価指標「1ボランティア受入人数」には、障がい者サービスボランティアに加えて中学生図書館ボランティアを明記し、図書館評価を確定、公表をしていくということでのよろしいか。

一同 同意。

### (3) その他

事務局より、リニューアルオープン時配付をしたチラシや平面図、今後開催予定の講座を案内。また現在開催中の公益財団法人静岡県グリーンバンク主催「図書館で割りばしプロジェクト」についての紹介を行う。

7 閉会

9 会議録署名人 岡田 建志 会長

白岩 伸也 委員

令和4年10月28日に開催された浜松市立図書館協議会の議事録の要点について、上記のとおり間違いがないことを確認した。

令和 年 月 日

署名

\_\_\_\_\_

署名

\_\_\_\_\_